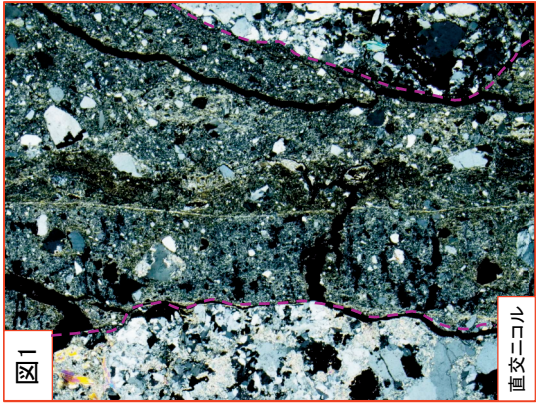
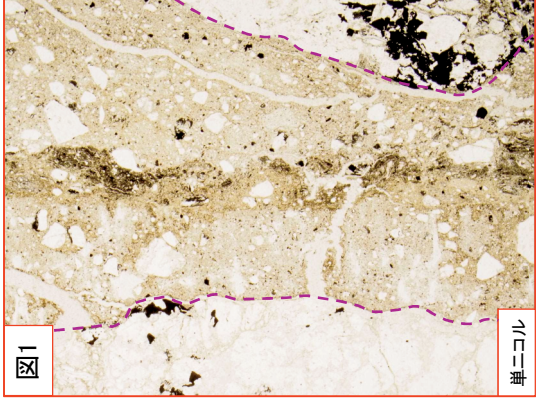
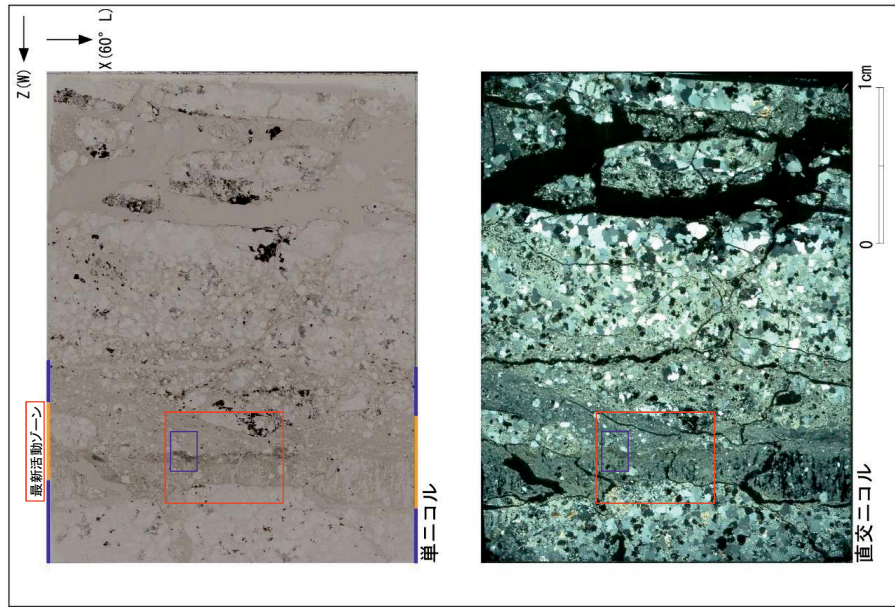
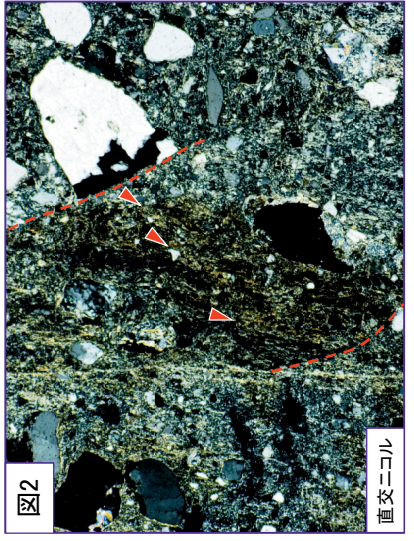
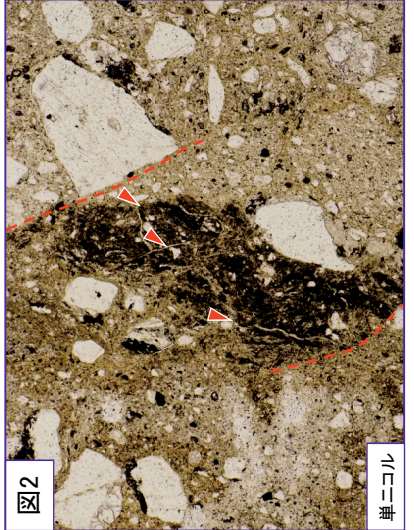
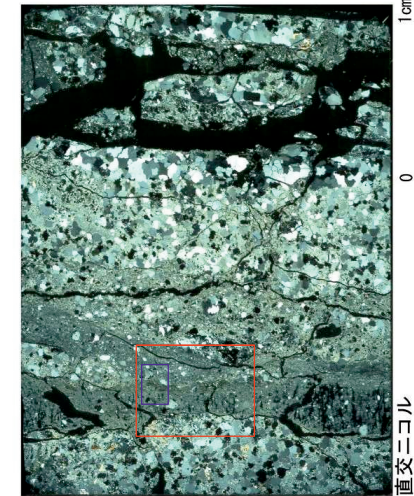


- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2, 3)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



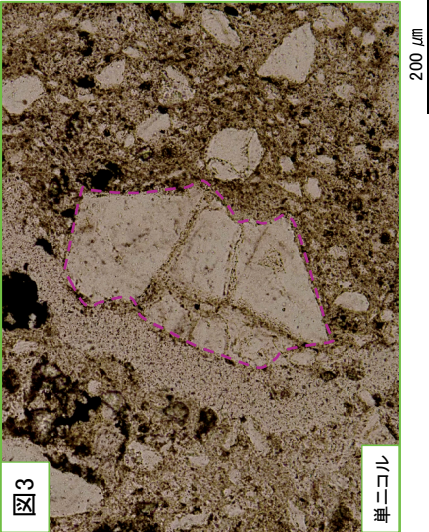
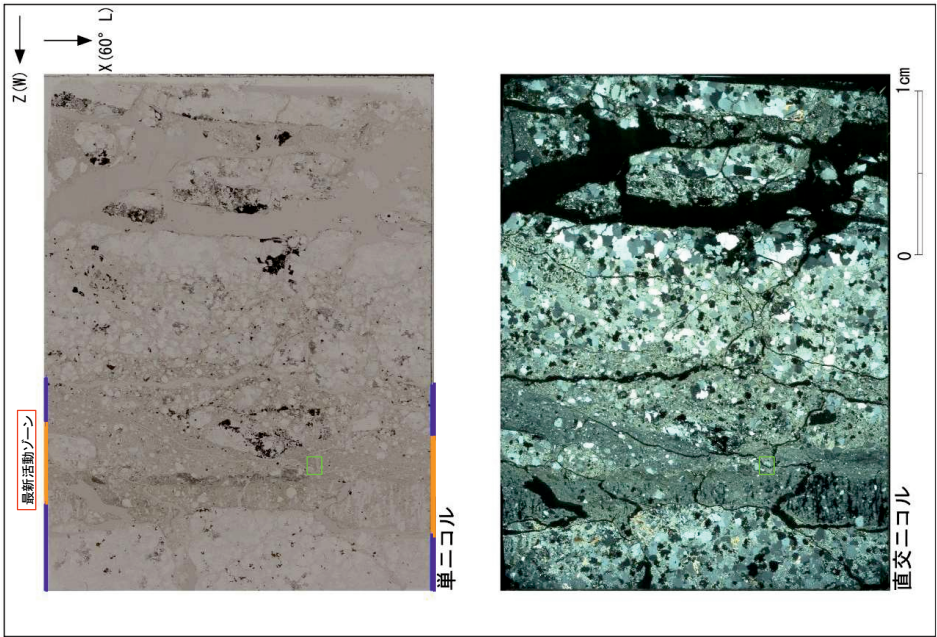
破線は帯状で直線的な粘土状部の範囲を示す



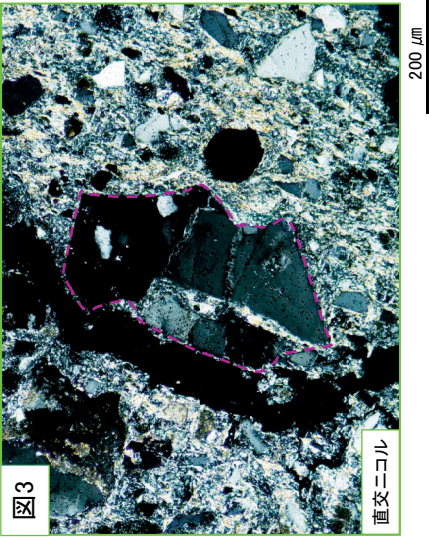
赤三角の方向は粘土鉱物の配列方向を示す  
破線はR1面を示す

凡例  
断層カウジ  
カタクレーサイト

・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。  
 ➤ ジグザグ状の角礫群が認められる。(図3)



破線部はジグザグ状の角礫群の範囲を示す



(肉眼観察結果 深度119.18m)

- 肉眼観察では、粘土状部は軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面  $\alpha$  に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面  $\alpha$  は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
  - せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
  - 基質は粘土鉱物を主体とする。
  - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
  - 岩片は少ない。
  - 丸みを帯びている岩片が多い。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
  - ジグソー状の角礫群が認められる。

最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトに断層ガウジに取り込まれたものと考えられる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
有	1.0	有

\*:断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。  
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度129.84～129.85mの「粘土状」と記載の箇所については、幅が狭いため、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できなかった。粘土は軟質であるが、断続的に分布し、粘土の境界面も波打ち直線性に乏しい。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。含まれる細粒部は、変質したカタクレーサイト中の粘土脈である。

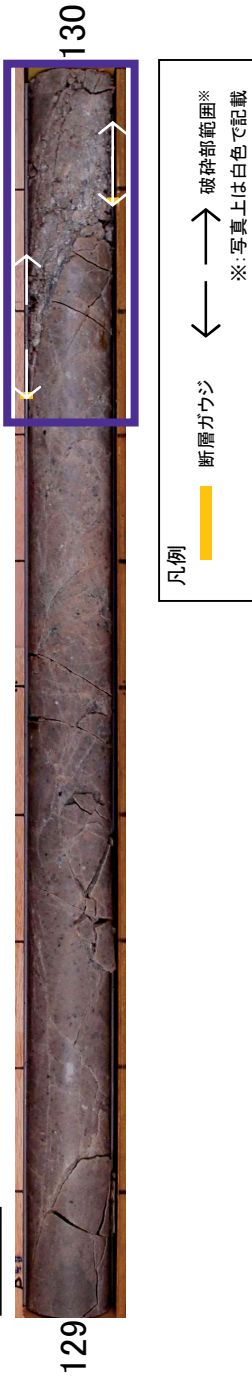
・深度129.85～129.91mの「粘土質岩片状」と記載の箇所については、軟質であるが、下位の健岩部との境界が漸移的で直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

・一方、深度129.84mにはフィルム状の細粒部が挟在しており、幅が狭いため、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できなかったが、軟質で、連続性・直線性・直線性として扱うこととした。

ボーリング柱状図

●129.84～129.91m：破砕部  
 129.84～129.85m：粘土状部 (Hc-2)  
 傾斜70°で上端は直線的に、下端は波打って断続的。径1～3mmの石英粒、径2～3mmの岩片を10～20%含む。軟質。緑灰色を呈する。幅2～5mm。一方、上端には暗緑灰色の幅0.5mmのフィルム状粘土を挟む。  
 129.85～129.91m：粘土質岩片状部 (Hj)  
 上端70°で波打って、下端60～70°で少し湾曲して連続。径2～5mmに細岩片化し、岩片間は粘土～砂状化する。粘土量は多い。オリブ灰色を帯びた灰白色を呈する。幅25～35mm。

コア写真



岩片状部

湾曲及び凹凸が少なく不連続部が認められない深度129.84mのフィルム状の細粒部



青砕部拡大

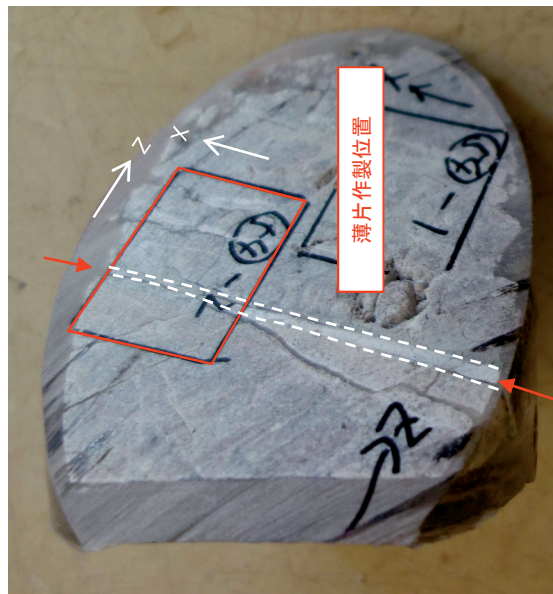
・薄片は断層面  $\alpha$  及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

※断層面  $\alpha$  は最新活動面



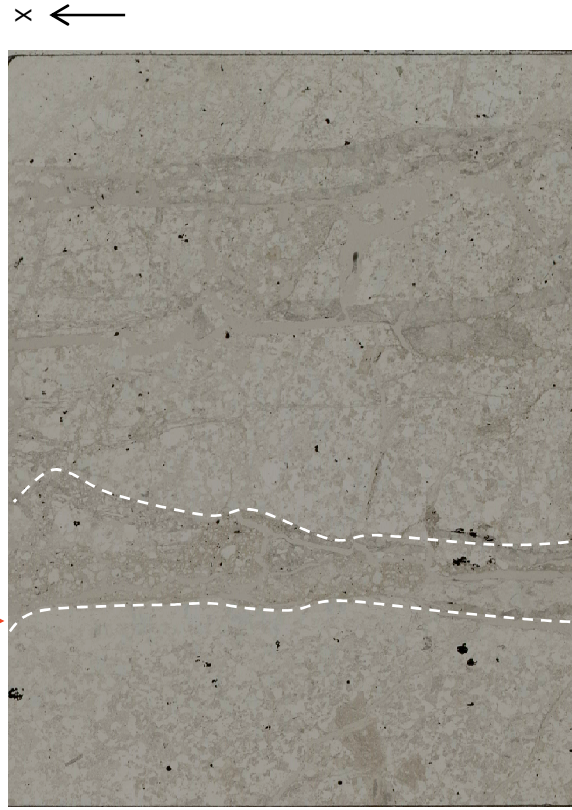
薄片作製位置写真



X:条線方向(下向きを正とする)  
 Z:断層面の法線方向(上向きを正とする)  
 ※:写真上は白色又は黒色で記載



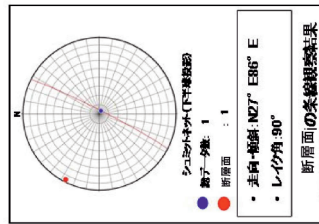
薄片全景写真(単ニコル)



X:条線方向(下向きを正とする)  
 Z:断層面の法線方向(上向きを正とする)

・H27-B-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、逆断層成分が卓越する。  
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。

- (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- (カタクレーサイト) 断層面に沿った帯状の粘土状の岩片は連続しない。
- (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。
- (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- (カタクレーサイト) 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。

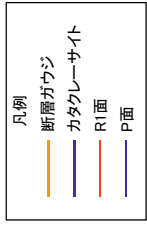
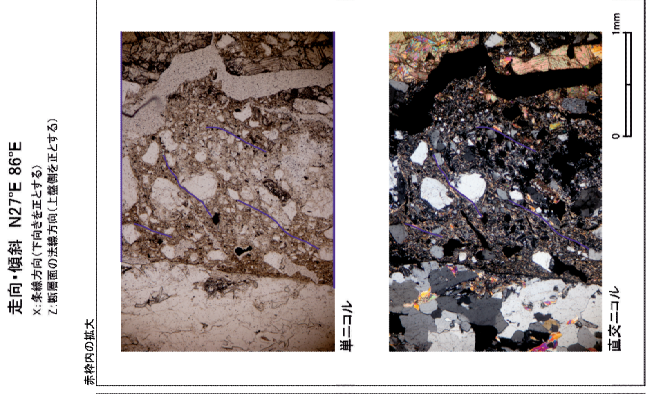
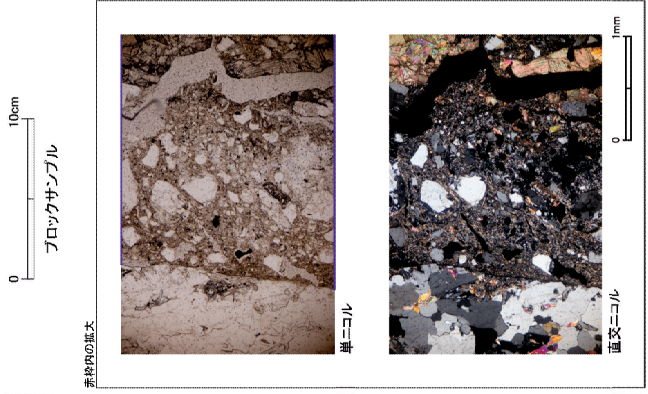
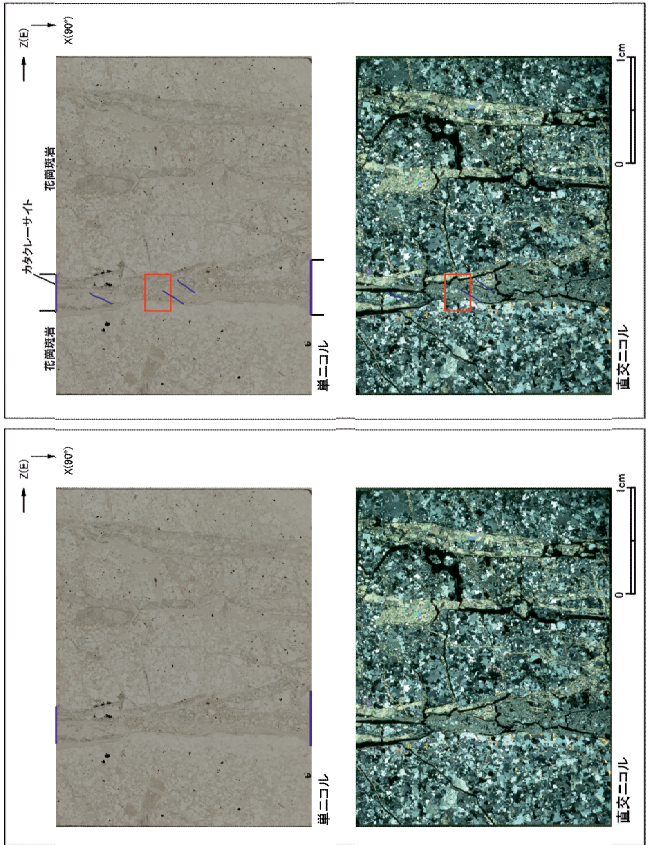
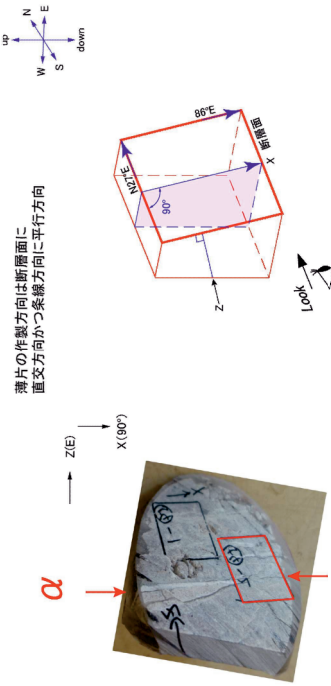


↑ ↓

最新活動ゾーン

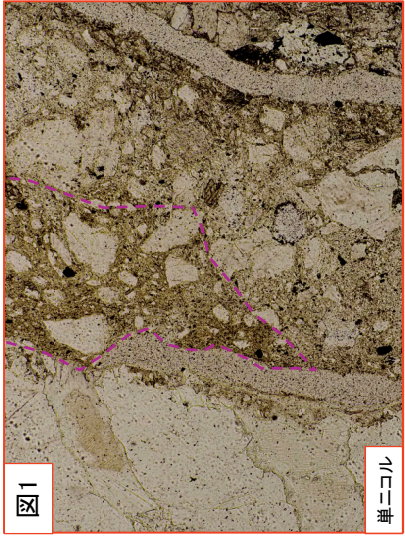
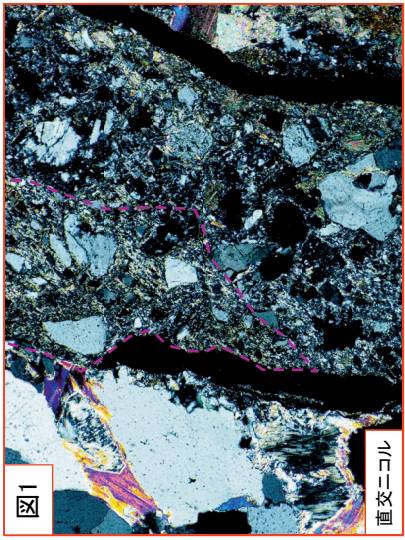
↑ ↓

※断層面  $\alpha$  は最新活動面



第7.4.4.336図 (3) 破砕部性状 H27-B-3 深度129.84~129.91m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/3))

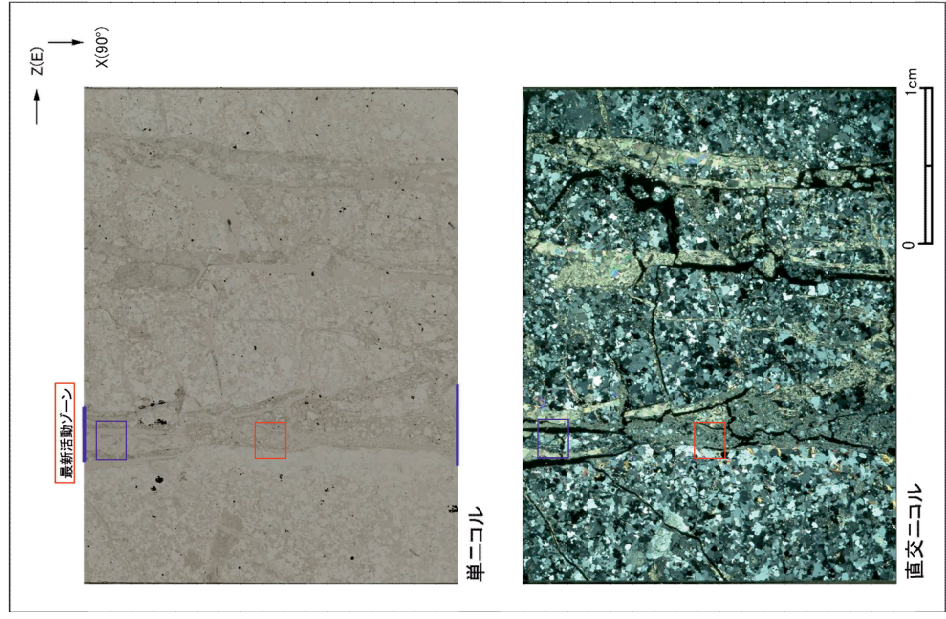
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 断層面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。(図1)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図1, 2)
- 角ばった岩片が多い。(図1, 2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



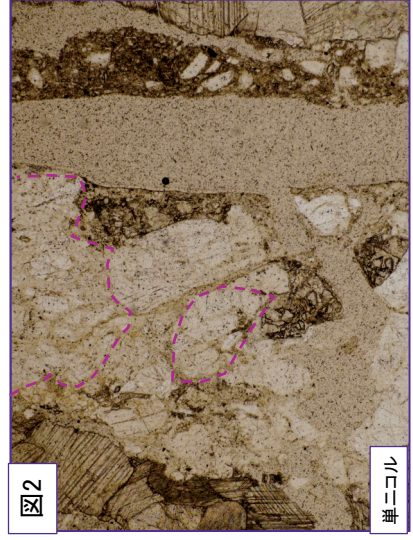
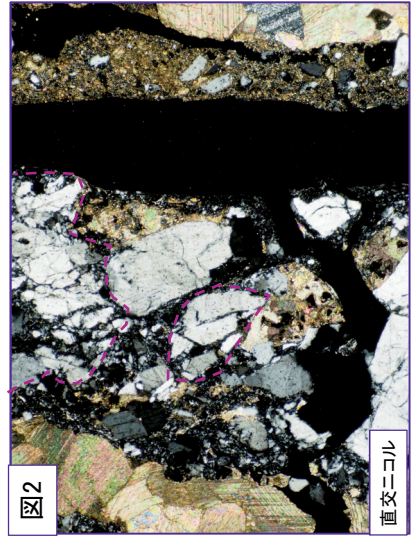
500 μm

500 μm

破線は粘土状部の分布範囲を示す



凡例  
断層ガウジ  
カタクレーサイト



500 μm

500 μm

破線はジグソー状の角礫群の分布範囲を示す